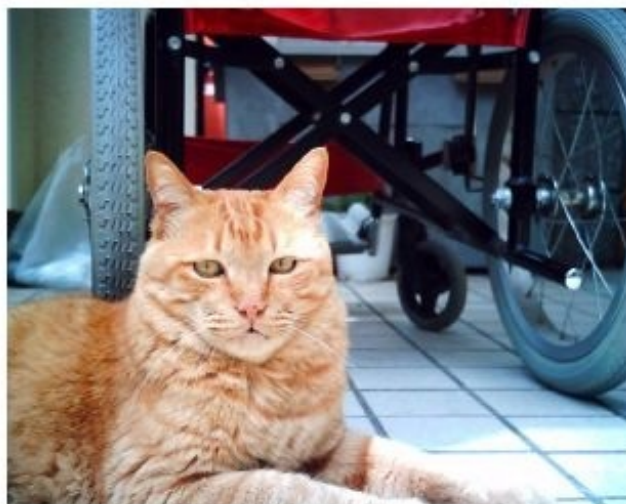


ただの猫



あじやりは猫だよ。

ただの猫。



後ろ足で歩いたりしないし、
言葉をしゃべったりしない。
めずらしい模様でもないし、
お手だってできない。



どこにでもいる。
ふつうのトラ猫。



赤ちゃんの頃にやって来て



やんちゃをした。



たくさん遊んだ。



いっぱいいっぱい、いたずらをしたよ！



そしてたくさんご飯を食べた。



ちょっとおデブさんでね。
お腹の毛なんか、もっふもふ！
さわると気持ちがいいんだよ。

走るのがとってもはやかった。



ひなたぼっこが好きだった。

猫じゃらしであそぶのが好きだった。



「カツオブシ」って言葉を聞いただけで
台所にとんでくるくらい
大好きだったよ。



あじやりはケンカに強かった。
ハンターなんだ。
しゅっ！と走って、
トカゲやコウモリを捕まえた。
すごいキバでかみつくんた。



あじやりは猫だ。
ただの猫。



でも、ちょっとおせっかいな猫だったよ。

夜になると

「早く寝なさい」

と、お父さんみたいに叱ってくれる。



朝ねぼうをしていると
「早く起きなさい！」
と、お母さんみたいにまた叱る。





子供たちが騒いでいると

「静かにしなさい！」

と、先生みたいにお説教をすることもあった。



だんだん 歯がなくなって

だんだん 高い木にのぼれなくなって

だんだん つめとぎができなくなって

だんだんと あじやりは おじいさんになった。



それでもあじやりは
赤ちゃんを見守り
子供たちと遊んだ。





何をされてもガマンした。



子猫のサンジを可愛がった。





たくさんの人たちと出会ってきた。
あじやりは、みんなのことが大好きだった。



あじやりは猫だ。

ただの猫。

でも、とってもやさしい猫なんだよ。



つらいことがあって泣いていると
「泣かないで。ぼくがいるから大丈夫」
そっと、そばに寄りそってくれる。

私のおふとんに入ってきて、
「子守り歌を歌ってあげよう」
耳元でゴロゴロのどを鳴らすんだ。
とても静かな、ひかえめな声でね。



その音は、寄せては返すさざ波の音にも似ていた。

あじやりのゴロゴロをきくと

なんともいえず安らかな気持ちになって

幸せな夢をみることができたよ。



あじやりは猫だ。
ただの猫。





どこにでもいる。



ふつうの猫。



だけど 世界一いい子で



世界一かわいい



世界一とくべつで
世界でただ一匹の
私の相棒だったよ。



ありがとう、あじやり。



おやすみ、あじやり。

